

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【児童の「もっと知りたい、聞いてみたい!」を引き出す教材の工夫】

児童が主体的にコミュニケーション活動に取り組むためには、児童が言語に対して「今、なんて言ったんだろう?」「もう一度聞いてみたい!」と思えるような学習活動を行う必要があると考えた。そこで、児童にとって身近な教師のインタビュー動画を作成し、『〇〇先生の好きな曜日は何曜日?』クイズを行った。インタビュー動画では、単元を通して身に付けて欲しいやり取り[What day do you like? I like～.]を何度も聞くことができるようにした。また、その理由を必ず聞き返し、イラストと一緒に提示することでまだ上手く聞き取れない児童も言語活動に参加することができるようにした。



(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【日常的で自然な流れを大切にしたスモールトークの展開】

学習課題を児童と一緒に作り上げていくためには、児童から自然な問いを生み出し、「自分たちもやってみたい!」と思えるような授業展開が必要だと考えた。そこで急な話題提示ではなく、教師たちの日常的な会話の流れを意識したスモールトークから、単元の課題へと自然につながっていくような展開を工夫した。普段の挨拶から始まり、自然な流れの中で「好きな曜日」について尋ね合うストーリーに引き込み、「みんなは何曜日が好き?」と児童を巻き込む展開にすることで、「このクラスで一番人気のある曜日を調べてみよう!」という学習課題へとつなげることができた。

本時のスモールトーク（抜粋）

T1 : What day is it today?

C : It's Monday!

T2 : ALT, you look tired. Are you OK?

ALT: I go jogging on Monday morning.
So I don't like Mondays.

T1 : Oh, You don't like Mondays.
You go jogging on Mondays.

T2 : So, What day do you like?

ALT : I like Tuesdays and Fridays.
Let me show you my week!

↓
3人それぞれが好きな曜日を伝え合う。
児童に話を振り、一緒に学習課題を設定する。



(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

【児童が楽しみながら何度も発声する機会の創出】

児童が英語に親しみ、伝え合う楽しさを実感できるようになるには、まずは発声する多くの機会を設け、児童が自信と安心感をもって取り組める環境を用意することが重要であると考えた。そこで、児童が楽しみながら発声を続けられるように、各授業の冒頭に曜日の歌を取り入れた。単調な反復練習にならないよう、歌のスピードに変化をつけ、早口言葉のようにゲーム性をもたせる工夫を行った。また、好きな曜日でフルーツバスケットを行う活動も取り入れた。遊びの中で覚えた単語を何回も使ったり、「相手の曜日を聞き取ろう」「自分の好きな曜日を正確に伝えよう」という意欲を自然と引き出したりすることにつながると考えた。これらにより、児童は同じ単語や言い方であっても新鮮さを感じながら活動に取り組み、発声の機会の積み重ねによって自信と安心感をもって伝え合う楽しさを実感できると考えた。

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○身近な教師のインタビュー動画を毎時間取り入れたことで、外国語に苦手意識をもつような児童も知っている先生が「どんなことを言っているのだろうか。」と関心を高くもち注意深く聞き取ろうとする姿勢につながった。

○インタビュー動画によって[What day do you like? I like～.]を何度も聞くことができる環境を設けたことで、児童が単元で必要な言い方に自然と慣れ親しみ、やり取りへの自信につながった。主体的に友達とやり取りをしようとする姿が多くの場面で見られた。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○日常的で自然な会話を意識したスモールトークの中で、児童が「自分たちもやってみたい!」と思えるようなストーリーを大切にすることで、児童が違和感を覚えずに、学習課題を生み出すことにつながった。

●学習課題は自然と共有できたが、活動そのものへの意欲は想定していたより高まらなかった印象がある。単元のゴールで行う活動をどんなものに設定するのかについても児童の主体的な態度に大きく関わっているため、さらなる工夫が必要である。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

- 曜日の歌や曜日バスケットなど、様々な方法で何度も曜日や質問の言い方を言う・聞く機会を設けたことで、児童が楽しみながら曜日の言い方に慣れ親しむことができた。繰り返し言ったり、聞いたりする機会は、児童の自信につながり、授業を重ねるごとに英語の表現を用いて友達と積極的にやり取りしようとする姿が多く見られるようになった。
- 発声する多くの機会を設定し自信をもって取り組める児童も増えたが、一方で、言い方が分からずに最後まで自信をもてないまま活動に参加していた児童の姿もあった。今後は活動の中で児童一人一人の習得状況を教師が適切に把握し、個別に支援していけるような方法をさらに追究していく必要がある。